資料番号	5

（古賀委員提出資料）

平成24年10月15日

国立大学附属学校の特色ー広島大学附属中高等学校の事例

広島大学附属中高等学校長　古賀　一博

周知のように、国立大学附属学校は、「教育実習」と「教育研究」という二大使命をそのミッションとして創設されており、広島大学附属中高等学校も例外ではない。その一端を披瀝すると、以下の通りである。

1　教育実習

5月、9月、10月の三期に渡って教育実習が展開されており、平成24年度の本校受け入れ教育実習生数（延べ人数）は次の通りである。

国語56名、社会52名、数学56名、理科76名、英語31名、他教科76名

全体総数347名（母校実習生を含まず）

また、広島大学に附設されている附属中／高等学校全体の実習生総数

（附属中高、附属東雲中学、附属三原中学、附属福山中高）：586名

これらの数は、教育学部学生を中心に、文学部、理学部、総合科学部、法学部、工学部、生物生産学部等の全学部に及ぶ。また、これら中等教育段階の実習以外にも広島大学附属学校園全体としては、附属幼稚園や附属小学校における教育実習等もある。本校は、養護教諭養成のための実習、さらには大学院修士レベルにおける教職高度化プログラム対応のアクションリサーチ実習も受け入れており、多様な教育実習が行われている。

2　教育研究

本校における具体的な「教育研究」活動としては、以下の諸活動があげられる。

（1）「中等教育研究大会」の毎年開催（全教科で）

（2）『研究紀要』の毎年発行

（3）「学部・附属共同研究」の実施（毎年）

（4）『同上研究紀要』への執筆（毎年）

（5）文部科学省「研究開発指定校」としての活動（現在はSSH）

3　その他ー社会貢献ー

上記教育研究の成果普及という観点から、所属教員の多くが広島大学をはじめ県内外の大学、学校あるいは研究／研修会に招聘され、指導助言、講話等を行っている。